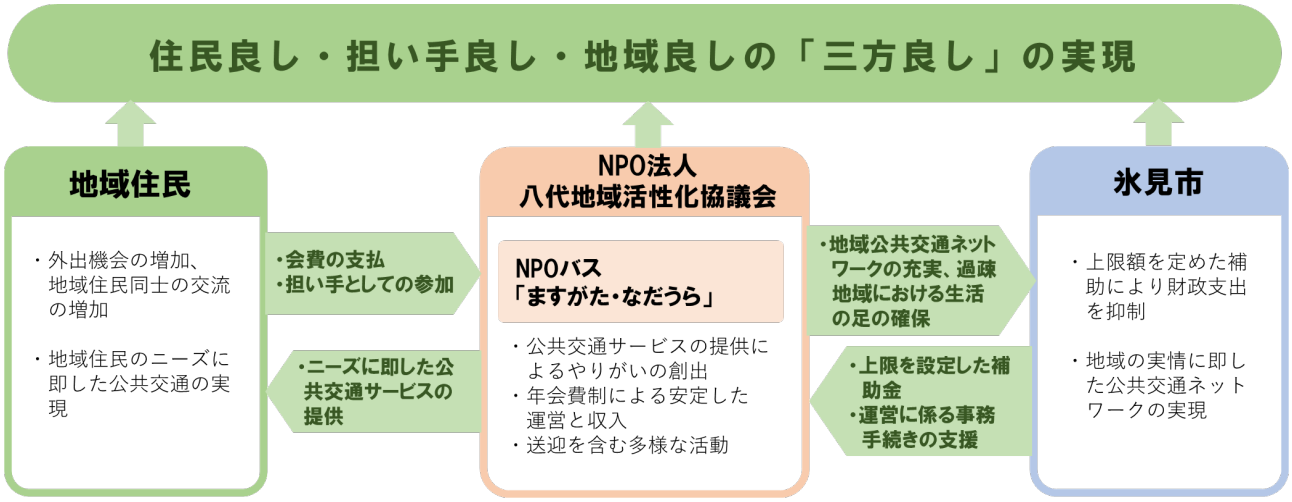
事例７　NPO 法人八代地域活性化協議会　＆　氷見市

■所在市町村　富山県氷見市（203.6 ㎢、人口 46,078 人、高齢化率 38.5%　※2020 年 10 月）
■団体名　NPO 法人八代地域活性化協議会
■市町村担当課名　氷見市地域振興課

氷見市には、民営の路線バスが廃止された後の代替バスを含めて、NPO 法人が運営する「NPO バス」に補助をする仕組みがあるが、いわゆる民間バス事業者へ委託する市営のコミュニティバスはない。現在、氷見市内には、「NPO 法人八代地域活性化協議会（2005 年～）」、「NPO 法人余川谷地域活性化協議会（2010 年～）」、「NPO 法人上庄谷地域協議会（2016 年～）」の 3 つの NPO 法人が NPO バスを運営している。この内の「NPO 法人八代地域活性化協議会」は、磯辺線「ますがた（5 便/日）」と灘浦線「なだうら（2 便/日）」の 2 路線（NPO バスとは別に委託のスクールバスが 1 路線）、「余川谷地域」は碁石線「やまびこ」の 1 路線、「上庄谷地域」は久目線「くめバス」、速川線「はやかわバス」と熊無線「くまなしバス」の 3 路線を運営している。これらの運営方法は、八代地域での方法を基本として他地域に横展開したものであるが、各地域の実情や NPO 法人の運営方針などに応じて、路線ごとに会費や仕組みや等の細部は異なる。

〈運営・運行を担う組織や人の役割〉



運転者や運営・事務局担当者の属性、増減とその原因

①3 つの NPO 法人が運営する「NPO バス」が過疎地の移動手段を担う

- 2001（平成 13）年より、地域のゴミ拾いや不法投棄の防止、定期的なパトロール、林道の草刈り業務などを行う「八代環境パトロール隊」（16 名）の活動が始まった。森杉理事長が行っていた活動に賛同する仲間が加わったもので、そのメンバーの一部が NPO 法人八代地域活性化協議会のメンバーとして現在も活動している。

- 磯辺線「ますがた」の運転者も、森杉理事長が、地域住民で見知った人に声をかけて有償運送運転者講習を受けてもらったもので、代替わりすることなく従事している（月 12 万円で雇用）。運転者は、あと 2～3 年で全員が 75 歳になるため、その後の運転者の確保は課題である。
- 運転者は、誰でも良いという訳ではなく、バスの発着地が各地域の中にあるので、その地域の方で運転してくれる人がいるのが一番良い。全然違う地域の人が運転者になっても、知っている人がいないので頼めない。
- 上庄谷地域は人口も多いこともあり、昨年に理事長は代わったが、八代地域活性化協議会の森杉理事長は、カリスマ性があるため、なかなか後継者が出てこない。
- 森杉理事長曰く「心配してはいますが、後継者は自ら手を挙げ、やりますと言ってくれる人であるべきと考えています、お願いして後継者になってもらうと、何か課題があるたびに、それを辞める口実にしてしまうでしょう」

利用状況の変化とその要因

①八代地域の利用者の減少要因は、高齢者の介護施設等への入所や死亡など

- 市の南部に位置する高岡市に近い地域では人口が増えている地域もあるが、八代地域は市の北部であり、人口減少の速度が速い。免許返納者が増えることで、利用者が増加するのではないかといった見込みも持っていたが、人口減少に合わせて利用者数も減少している。
- 免許を返納した場合はタクシー券か NPO バスが利用できる券を 2 万円配布しており、市全体で年間に 70 人程度が返納している。しかし、八代地域では、例えば、家から畑まで軽トラを乗るから免許を返納しないというような人が多くいるとのことである。
- 2018（平成 30）年度と 2019（令和元）年度の利用者数を比較すると、八代地域では、磯辺線（約 10,000 人→約 9,000 人　※なお、2015（平成 27）年度の利用者数は約 17,000 人）、灘浦線（約 4,400 人で変わらず）、余川谷（約 7,500 人→約 7,900 人）、上庄谷の久目線（約 15,000→約 16,000 人）となっており、八代地域の磯辺線の利用者の減少が目立っている。その他の地域では、利用者は増加している。
- 八代地域の利用者の減少要因の 1 つは、利用者である高齢者が介護施設に入所したり、亡くなったりすることで利用がなくなるケースが多いことにあるようだ。運転者に聞いてみると、バスの利用者が徐々に弱ってくるのが分かるとのことである。段々と身体機能が低下し、3 年くらい経つとバスに乗らなくなるということが多いようだ。
- NPO バスは、移動手段としてのみでなく、バス利用の有無が安否確認になっていたり、「走る公民館」などと言われており、とても良いものと評価している。これを維持できればと思っている（地域振興課）。

〈運行ルート〉

磯辺線「ますがた」

灘浦線「なだうら」

出典：氷見市提供資料

財政状況の変化とその要因

①利用者の減少に伴い会費を値上げすることで、NPO バスの運営を維持

- 2005（平成 17）年から「八代地域」が運営していた NPO バスの方式を他の地域にも展開したもので、いずれも運営費用を賄う収入は会費が基本となっている。仕組みや費用は地域や各法人の運営方針などによって異なり、八代地域は「年会費制」、余川谷地域は「1 か月定期券制」、上庄谷地域は「年会費・回数券併用制度」である。
- 「八代地域」はバス利用者から 5,000 円の法人会費と居住地によって異なる運送の対価を得ており、後発の「余川谷地域」と「上庄谷地域」は、法人会費は地域内の全世帯からそれぞれ 1,000 円、2,000 円ずつ集め、バス利用者から運送の対価を得る方法となっている。運賃体系は、地域ごとに運営しながら徐々に値上げをしている。

〈八代地域活性化協議会の会費の設定〉

八代地域活性化協議会	
磯辺線「ますがた」	灘浦線「なだうら」
■年会費制 (1)正会員(バス利用者) ①＋② ①法人会費 5,000 円 ②バス会費(住所地ごとに設定) 15,000 円、25,000 円、30,000 円 の 3 種 (2)賛助会員(事業賛同者) 5,000 円/口	**■年会費制** (1)正会員(バス利用者) ①＋② ①法人会費 5,000 円 ②バス会費(住所地ごとに設定) 5,000 円、10,000 円、15,000 円、20,000 円 の 4 種 (2)賛助会員(事業賛同者) 5,000 円/口

- 値上げの理由としては、氷見市が行っている、「氷見市 NPO 公共交通空白地バス路線支援事業費補助金」の仕組みがある。補助対象は「代替路線」と「生活路線」の 2 種類があり、前者は「廃止される企業路線バスの代替として必要な路線で、かつ、運行収入等が運行経費の 40%以上の路線」であり、後者は「地域住民の生活に必要な旅客自動車輸送の確保のために必要な路線で、かつ、運行収入が運行経費の 50%以上の路線」とされる。したがって、代替路線では 40%、生活路線では 60%以上を運行収入等で賄う必要があり、法人からは、この割合は負担が大きいと言われている。
- また、富山県には「富山県 NPO 公共交通空白地バス路線支援事業費補助金」があり、公共交通空白地有償運送（現：交通空白地有償運送）を行う NPO 等に対して、運送費を補助する市町村が補助対象となっている。富山県の補助対象も、通勤路線とその他路線に分かれており、市の補助制度はこの影響を受けている。
- このような仕組みであることから、運行費用が一定であれば、地域の人口が減少するにしたがって、会費を値上げする必要が生じることになる。
- 市内の 3 つの NPO 法人が運営する NPO バスを対象とした補助金は、約 3,000 万円/年であり、そのうち約 500 万円/年は県からの補助金である。

行政や社会福祉協議会等との関係、地域の反応とその要因

①補助金のみでなく、市は行政手続きなどの事務手続きを支援

- NPO バスの担当課は、かつてはコミュニティデザイン応援課にあったが、当該課がなくなったのちは都市計画課に移り、その後に地域振興課が所管するようになった。バスと鉄軌道は、地域振興課の所管である。
- 補助金のみでなく、役員を変更した際の行政手続きや免許の登録の変更の事務手続きなどは市が行うなど支援している。NPO バスと市で 2～3 か月に 1 回情報共有の場を持っていた（現在はコロナ禍で実施なし）。

- 路線によって運行距離や便数が異なるので、1 路線当たりの補助額には濃淡がある。補助額が最も多いのは、上庄谷地域の久目線である。

見どころ

①八代地域の方式を他の地域に展開。運営費用は会費と運送の対価が基本

- 路線バスが廃止された後の代替バスを含めて、3 つの NPO 法人が各々に運営する「NPO バス（交通空白地有償運送）」が過疎地の移動手段を担っていること。一番先に立ち上がった NPO 法人八代地域活性化協議会は 2005（平成 17）年に発足し、15 年間活動しており、2010（平成 22）年に「NPO 法人余川谷地域活性化協議会」、2016（平成 28）年に「NPO 法人上庄谷地域協議会」が発足した。
- NPO バスは、「八代地域」が運営していた方式を他の地域にも展開したもので、いずれも運営費用は会費と運送の対価を基本 として賄われている。地域住民がみんなでバスを守るという意識に支えられた仕組みである。

課題

①NPO バスを含めた、市の地域公共交通全体のビジョンの明確化が課題

- NPO バスがあるから、氷見市内には移動手段があると言えている現状であるが、利用者も減少し、担い手の減少も懸念される。
- NPO バスを対象とした市の補助制度は、運行費用が一定であれば、地域の人口が減少するにしたがって、会費を値上げする必要が生じることになる。「ますがた」は利用者が減少しており「高齢者の介護施設等への入所」や「死亡」などと考えられる。これに対して、現状は、会費の値上げなどで運営を維持しているが、法人としては限界があると考えている。
- NPO バスを含めた、市の地域公共交通全体の中長期的なビジョンの明確化が課題となっている。令和 4 年度に市単独で地域公共交通の計画を策定する予定であり、その中で移動手段のひとつとして NPO を取り上げ検討していく。
- NPO 法人からは、市に対して今後のビジョンを示して欲しいと言われるが、他の法人との運賃体系や法人運営の考え方の違いもあり、これらを整理していく必要がある。新しく NPO バスが走るというタイミングのときは、広報でも大きく取り上げられたが、それ以外の時は露出が少ない。
- 消防団等も人が足りず、どの地縁組織も世代交代ができない。防犯パトロール（安否確認等）を行っていると、自主防災組織から除雪の依頼が来る。自治会はあるけれど会議中心。生活を支える取り組みが必要だと思う。（八代地域活性化協議会）

■活動概要

<table>
<tr><td>団体名</td><td colspan="4">NPO 法人八代地域活性化協議会</td><td>事業形態</td><td colspan="2">NPO 法人</td></tr>
<tr><td>開始年次</td><td>2005 年</td><td>運送形態</td><td colspan="5">交通空白地有償運送</td></tr>
<tr><td>予約</td><td>予約なし</td><td rowspan="2">利用者
居住地域</td><td colspan="5" rowspan="2">氷見市八代地域、灘浦地域、市街地</td></tr>
<tr><td>乗客限定</td><td>あり</td></tr>
<tr><td colspan="2">降車場所設定</td><td>なし</td><td>設定場所</td><td colspan="4">病院・医療施設、福祉施設、商業施設、学校、駅・バス停など。降車場所はバス停を一応指定してありますが、本人の希望により路線上自由。</td></tr>
<tr><td colspan="3">居住地域と降車場所の関係</td><td colspan="5">居住地域に隣接する市町村、及びその先にも降車場所あり</td></tr>
<tr><td colspan="3">車両情報</td><td colspan="5">トヨタ・ハイエース(14 人乗)3 台(持ち主:八代地域活性化協議会)
三菱・ローザ 1 台(持ち主:八代地域活性化協議会)海峰小学校・北部中学校スクールバス</td></tr>
<tr><td rowspan="3">運転者情報</td><td>合計</td><td>6 人</td><td>～64 歳</td><td>0 人</td><td>65-74 歳</td><td>6 人</td><td>75 歳～</td><td>0 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">稼働人数(2020.3)</td><td>6 人</td><td>雇用形態</td><td colspan="3">有償ボランティア</td></tr>
<tr><td>謝礼報酬</td><td colspan="6">最低賃金程度(1 か月 12 万円または日給)</td></tr>
<tr><td>利用形態</td><td colspan="2">介助者同乗</td><td colspan="2">なし</td><td>複数乗車</td><td colspan="2">実施していない</td></tr>
<tr><td>運送対価</td><td colspan="7">年定額で 5,000 円、10,000 円、15,000 円、20,000 円、25,000 円または 30,000 円 （住所地による）</td></tr>
<tr><td>収支</td><td colspan="2">主な収入源</td><td colspan="2">運賃、会費、補助金、協賛金</td><td colspan="2">収入総額(直近年度)</td><td>10,992,664 円</td></tr>
<tr><td colspan="2">運送実績
(2019 年度)</td><td>稼働日数</td><td colspan="2">平日 5 回、土・祝日 3 回</td><td colspan="2">利用者数</td><td>延べ 13,507 人</td></tr>
</table>